光

第三十七輯

大正十四年一月

一燈園の家風……西田天香

弱きに徹する……鈴木五郎

戀愛の創造と永續……中桐確太郎

失業者たちの不幸に泣く……谷口雅春

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる浄財

流るゝ水に記録す……松下吉衛

聖フランチエスコに就いて……黒田正利

凡夫身より菩薩道へ……住田蓮車

燈影小塾……れんしや

光の友の會記事……光友諸兄

一燈園・宣光社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如しっ物あり、之に觸れて色々の光を發す　光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、眼に一宗に偏らず、古今聖哲の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もさよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實和に名けて天華香洞さいふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名げて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭を葛藤に根絕し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園の家風（二）

西田天香

今までのくらしの世間に死んで、そして、此の生活に新らしく生れ出た人は、言はず語らず大きな願を持つやうになります。折角此處に生れたことですから、一番善いことをしたいとは、誰しも願ふことですが、生々世々かけて大圓覺成就せんがため發願し、道に向つて懸命に祈り、精進しつゝ、さうして死ぬることならば、いつ死んだとて、些しの悔いも遺憾もないことです。此の世に生のある限りは懺悔と感謝で諸宗の眞髓を禮拜しつゝ死ぬることが出來たならば、それこそは、まことに本懷といふものです。

奈良の大佛樣は大圓覺を型どつた全體の象徵です、柳は綠、花に紅といふその凡ゆる現象も毘盧遮那佛と現じたのです。一切の理想が佛の像となつて表現されて居るのです。眼は半開に、悲慧圓滿の相好はやさしく、さうして合掌してゐます。人格を理想化せんとして合掌する時、入我我入の境に入るのです。理想の我を大きくすると、そのまゝの相（すがた）が毘盧遮那佛です。十一面觀世音はいろ／＼な世相を觀ずる象徵です。此の複雜な世相を、そのまゝに凝（ぢつ）と視詰めてゐる眼は自分にそのまゝの深い

祈りとなつて居ります。

此の一燈園は、皆さんの深い祈りの心持で、共に祈り合ふことを許されたいと集つた集團です。そこにその祈りから、自らなる家風が生れたのです。組織的な細いことはまだきまつてゐませんが骨髓は集團としての祈りを一つにすることです。さうすれば個々別々に祈つてゐるよりはより効果も多くまたお互ひには樂でもあります。當番を立てゝ世間的な交渉の一切の面倒を見て貰へば、托鉢者各自は全く無念無想に合掌して行かれます。兎に角、かうして共に祈つて居ることは便宜なことです。それ〴〵の家庭では了解なく、托鉢生活を心配してゐても、他に隨喜する人達の力を見ては安んずることもあります、托鉢者を訪ねて來る人を泊めて貰へます。その人に食事を供養することも出來ます、路頭にゐるのでしたら會ふことすらも容易ではありません。一人でやり初めると狂人の様に世間から見られますが一燈園へ來てしますと兎にも角にも認められます。それで、また此の便宜の德を滅ぼさぬやうに、一つの正しい機能となつて祈らねばなりません。全體の一部と心得てゐなければなりません。よく自分勝手の人があつて園としては隨分困ることがあります。皆が一つになつて積んだその德の利益だけ受けて、さうして我がまゝ勝手な眞似をする。園としては可成り苦しいのです。當番は暫らくは言はずに拜んでゐます。眞面目な人が托鉢に行つて拜み合ふて來てゐるものを、後から行つた人が不眞面目で地獄を作つて來ることがあります。この德を滅ぼして行くことを書にでもしたら、ぞ

つとするやうなものが出來るだらうと、私はよく思ふことです。一燈園へは別にその人をお賴みして呼んだ譯でもなく、自分から進んで來られたほどのことならば、これ位のことは注意してくれてもとつい愚痴の出ることもあります。亡くなられた山本太一さんが、北海道地方を一人路頭して歸りに長濱へ來ました。大分疲れて餓えてゐました。その時、あるお家で、『あなたは一燈園の方ではありませんか』と言つて、いろ〳〵親切に慰はり、泊めてくれたのでした。その時、山本さんから私によこした手紙の中に、『誰が植えられし菩提の因』と書いてありました、それを見て私は覺えず涙しました。感謝の言葉もありませんでした。そのお家といふのは、私が長濱で此の生涯に立つて初めて托鉢した家でした、反對に隨分園を了解し隨喜したお家が、托鉢の人の不都合から、すべて一燈園に反感を持ち誤解して遂には、新らしく園を信賴して來やうとする人を阻止するやうのことさへあるものです。

そのための障りは隨分大きい。

他から、一燈園の修行者と重賓がられ、大切がられる時、足元を浮かせないやうに、見つめねばなりません。よく私に同人のお禮を言はれることがあります。私は、私へのお禮の言葉ならいたゞけますが、同人へのお禮は同人へと言ひます。奪ふことは恐ろしいことです。少分の德なりとも若し自分の行から出たならば、それを一切衆生に回向すべき生活に立ちながら、他の生んだよき結果まで自分に納め遂には園を出てまで、利慾にからんだ我執の行爲をするやうな危い人もないではありをせんで

した。

此の園を中心に立つて居る以上は、集團的魂を戯修せねばなりません。手に合ふお仕事をさせていたゞくのは報恩の人です。回向のためにとて報恩をするのです。集團的家風を守らぬ人は、他に報はれたる徳を奪つて、結果を自分に納めやうとするのです。墮地獄の業です。怖れねばなりません。

此處は不肖受の道場です。拜んで菩提心から下さるもの丶以外は受けられません。一燈園へ持つて來て下されても、もし少しでも不純な心が見えたら、當番は返しに行つていゝ位です。園の家風を淸浄にと願ふ人ならば酒も煙草も用ひられないのです、一燈園へ行つたら酔つぱらいがゐたと、それから事に憎惡を感ぜしめることがあるかも知れません。

初めて來た人にも、やさしく、親切に、謙遜であれば、深い印象となつて、かねての問題も解決し誰が植えし菩提の因と、尊い芽が出ることもあります。なるべく貰はぬやうにして下さい。『いらぬといふけれど、出せば喜ぶ』と思はれたのでは、一日の眞劔な托鉢も、僅な報酬位のために、反て惡い結果のみを殘すやうになるかも知れません。

世間では、同人を、落伍者と思ふて居る人もあります。まことの同人、一燈園生活者は落伍者ではなくて、飛躍して來た人です。當番初め先に立つ人は、その心でないと、新らしい人を育てることが出來ません、みんな神の子です、佛の子です、おひかりの子です、さうして、新しい人は、また、當

番初め先に立つ人に信順して、我見を愼しみ素直な心持で教を乞ひ、道を學ばねばなりません。

典座はまた御飯の時に一つの願を持つて居らねばならぬやうです。味の良い惡いは別として、佛様に捧げる心で、身體に障るやうなものはすゝめぬやう、怠らぬ注意がいります。

托鉢先から自分に供養されたものでも、必らずお光りの前に供へべきであります、さうして、一般のものになりて、その人の入用のものは、更めてお光りからお供養されるのです。その人若し病氣をした時、それは集團の負擔です。原則としては下駄一足でもを光りの前へ供へねばなりません。貰ひませぬ、と、いふ挨拶はむづかしいものです、誇らず、傲らず、謙遜の心を持つて申さねばなりません。

此の生活者は、原則として、園内で食事はいたしません。此の建物を預る時、その經費について熟考しました。地代だけはいりますが、其の他には何も貰はないでゆかれます。地代もなければ此の家を貸せばよい。此の建物のために煩ひを起らぬことを果すには、先づ此處で食はぬことです。お供養が澤山あるので、つい食事もいたしますが、年の暮だけは、今でも皆此の家を出る慣はしとなつて居ります。

若し食が與へられずして空腹になつても、尙、一時間、二時間の保ちあらば、お光りに感謝して奉仕すること堪えられなくなつたら、報恩のために死んで行くのです。園に歸つたのにたべるものがな

かつたなぞと、不足にしてはならぬことです。

此の生活を以て生涯を徹す、集團的魂の失はぬ人なら、自然その人の動作、態度、覺悟となつて現れます。自分が苦心して德を積累しても、例へば病氣の時、その時の事情で、一度醫師の診療を受けられず、一服の藥をのめぬとしても、滿足して死に往ける底の人は同人です。お光りには見えてゐるまた見える人には見える、同人と呼ぶことにも苦心がいります。一燈園の態を見に來た人、たゞ研究に來る人、創作の材料を取りに來る人、探偵に來る人、一時の腰掛けに來る人、樣々です。之等の種類の人々は、假令何年此處にゐて下されても、それは同人といふことは出來ません。禪宗なぞでは獨參とて、老師が一人一人について仔細に調べるのですが、こゝでは、假に一年以上居る人を同人とよんでゐますが、まことの同人であるか否かは、正しく自省して、その人自身が先づ知ることです。

奈何なることにも不平を出さぬのが此處の家風です。家風は園の淸規です。我見我執を以て計る人あらばその人は家風に合はぬ人です。法界を成就し、淨土を建設せんがための願であります。

假に稱けて淸規とも申しますが、元より一ケ條の條文も要しません。不文律であるべきです。要は眞劍な托鉢者の求道の魂と躰とから滲み出たそのまゝが家風であります。（なはり）

弱きに徹する

鈴木五郎

天香さま、先日お目にかゝらせていたゞきました時には、いろ／＼とお教へをいたゞきましありがたうございました。あの節、私から、法然さまが『惡人なほもて往生す、況んや善人をや』と仰せられ、それを親鸞さまが『善人なほ然往生す、況んや惡人をや』と仰つた違ひについてお伺ひしました時に、『それは漸と頓との違ひでせう』とのお言葉でしたので、その後それをたよりにいろ／＼練らせていたゞきましたところ、漸く私だけには、はつきりしたやうな氣がいたしますので、それを申し上げて、猶お教へをお願ひしたいと存じます。

人が救はれて、甲の人格であつたものが、乙の人格に變るといふことは、甲の中に乙となるべき因が既にあつたのが、丙といふ縁に觸れた時におこるものだらうと思ひます、此の因縁和合の中に、法然さまは因の方を重く仰しやり、親鸞さまは縁の方をおもく仰有たので、一寸見ると逆のやうに思はれるのだらうと存じます。

それは、例へば因縁和合して 100 といふ數字になつた時に變化がおこるものとすれば、因の數が大きくなつても、縁の數が大きくなつても、その結果に違ひはないのですが、因の方が大きくなるのは、元來、因は人の生れ付きとか修養の結果とかいふやうに、前から豫知される

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

性質を持つてゐるので、順であり、漸であるやうに思はれるのだと存じます。

たゞ、世間の實例に於ては、善人は律法の行ひの正しきを以て滿足して了つて、究極の救ひには入らず、本當に救はれるのは、寧ろ惡人に多いやうに見えるのは、善人が救ひに入る方の因は豫知出來ますが、惡人が救ひに入る方の緣の大きくなる關係は、人間には全く豫知出來ないので、その變化が起つた時には、非常に突然のやうに思はれて、印象が深いためであつて、また逆でもあり、順であるためだと存じます。

それで、親鸞さまが特に逆の方を强く仰有つたのは、人は、もつともと自分に豫知出來る方にのみ心を引かれ易いものですから、惡人は、自分は救はるべき因を持つてゐないから駄目だと絕望するのを阿彌陀樣を信じ、南無阿彌陀佛と稱へて、緣の方を大きくすることによつて、惡人は惡人ながらに、即ち、因の方は極く小さくても救はれるといふ、ありがたい他力の敎へだと存じますが、いかゞなものでせうか、お手すきの時にお敎へ下さいませ。

昨日の國民新聞に、デンマルクの軍備全廢のことが出て居りまして、その結果、デンマルクでは、軍事費を國費の僅三パーセントにしかあたらぬとのことで、何處やらの强國が國費の大半を軍事費に消耗して、上下塗炭の苦しみに喘いてゐるのに較べて、何といふ違ひでございませうか。此處にも、弱きに徹するものゝ倖せの大きなる實例を見ることが出來まして、獨りほゝ笑みました。

戀愛の創造と永續

（吉田咲二君と奥田仲子君との結婚式にて）

中桐確太郎

エマルソンは『自分の文章は松脂の臭ひがする』と申してをりますが、それにまねて申しますれば私の話には、いつも白墨の臭みがあるとでも申すべきでありませう。今夕も夜學の教室から直ぐにかけつけて參りましたやうな次第で、着物からして白墨臭く、誠に恐縮の次第でありますが、司式をさせていたゞきましたに因みて何か御話をするやうにと、松下さんからの御勸めでありますから、こゝに御祝をかね一言申上ぐることゝ致します。

私は小著『予の戀愛觀』を公けに致しました以來、色々の方の御訪問に接しますが、その中には、よく『私は親のすゝめに從ひ、極めて舊式の結婚をいたしたもので、現在のつれあひとの間に、所謂戀愛を感じてをりません。いかに致したらよいのでございませう』などゝ申さるゝ方もございます。その時、私は大概次のやうに御話申上ぐることを常といたしてをります。

所謂る戀愛によりて成立てる結婚、必ずしも永續すると限らぬことは、西洋でもよくいふことであ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

りますのみならず、『眞の戀愛は結婚の後に來る』とは、古代の希臘の諺にも、またエスキモーの言ひ傳へにもあるとのことでございますから、寧ろ結婚生活中に戀愛を創造せられては如何でございませう。『予の戀愛觀』にもやゝ詳しく申述べて置きました通り、戀愛とは、異性美によりて開發せられ賦彩せられたる愛であり、即ち先づ異性美によりて惹き起されたる自他一體感を基礎とするものであるとしますれば、お互に男子は男性としての、また女子は女性としての、美を涵養することが戀愛創造の第一條件であると思ひます。抑も異性美なるものは、異性に對して有つてをる要求が、理想的に具體化したものであると致しますれば、異性美なるものは、風土により、社會により、また個人の特殊の事情等によりて種々に異ならざるを得ざるものでありまして、何を異性美であるとすべきかは、一樣には言ひ定むることは出來ませんが、形體美及び精神美が相伴ひませんでは、それによりて體驗する自他一體感も、自然に、淺く且つ弱からざるを得ぬことは申すまでもございますまい。

併しながら縱ひ、つれあひに異性美がありましても、こちらにそれを見る眼が開いてをりませんでは、まことに遺憾と存じます。然らば其の樣な眼を開くとは如何なることでございませうか。今月八日は釋尊が御悟りを御開きになつた日といふので、それを紀念する爲に所謂る成道會があちこちで催されてをりますが、經典の傳ふる所によりますれば、菩提樹下に端坐せられた釋尊が、大悟徹底の眼を開いて御覽になりますと、『光明天地に滿ち、天皷自然に鳴り、香風除ろに薫じ、天華雨の如くに降

り、一切の衆生、禽獸に至るまで、皆ニコ〳〵として、地獄の相、全く消えうせ、此世はこのまゝ寂光の淨土と化した』といふことであります。大悟の眼が開けますれば、此のまゝの此の世に、端嚴美妙の實相を見ることを得ますことは基督――今月廿五日、御誕生を祝せらるゝ耶蘇基督の御實驗にもございますやうで、かの野の百合を御覽になつて、『ソロモンの榮華の極みの時だにも、その裝ひ此花の一つにだにしかざりき』と仰せられた御言葉にも察することが出來ると思ひます。此の如きは決して此の御兩人に限つた事ではございませんが、若し此の如き眼が開けましたならば、美はあらゆるのに發見することが出來ると思ひます。然るに吾々の通常に於て、此の如き美を發見することが來もぬのは如何なる故でございませう。これは吾々の眼に無明の翳りがかゝつてをるからでございますまいか。ダマスコスの門外、インスピレーションの天光にうたれたるポーロの眼から、鱗の如きものが脱ちたと申しますが、我執我慢に囚はれたる私共の眼には、また一種の鱗が、幾枚も重なりついてをるのを常といたします。此の鱗を一枚はがせば、それだけ眼は明かになつてまゐるのでありませう。簡單に申しますれば、何人でも天然の美を具へてをらぬものはありますまい。たゞ自分の我儘がうすらいでまゐります時、あひての美もあざやかに見ることができるものであると思ひます。

二

しかしあひての異性の美を見ることができて、こゝに戀愛を創造することができましても、所謂る

結婚愛は、それに伴ひて生ずる種々の執着によりて、その愛が枯れることが少くありません。結婚生活に入りますれば、世間交際の義理や、子女敎育の必要などに迫られて、種々の辯解や口實ができてまゐりまして、愛の働きはおのづから偏狹固陋になり、廣き人類愛と沒交涉になることも少くありません。われ〳〵の經驗いたしまする愛は、通常には部分的の自他一體感でありますが、その實體、その根據は一切他との一體感でありまして、愛の諸相はそれ〴〵の機緣に應じてあらはれたる部分的のものに過ぎぬと思ひます。故に結婚愛も、國家に對する愛と同じやうに、少くも、より廣き人類愛に根ざしを定むべきであります、所謂る武士のなさけ——例へば乃木大將がステッセルに對してあらはされたる如き愛は、要するに優れたる人類愛の發現でありますし、またかけまくも畏きことでありますが、明治天皇を以て、眞正なる愛國的精神の權化であるとして仰ぎ奉るのも、『四方の海みな同胞とおもふ世に、など波風の立ちさわぐらむ』といふ御製にもあらはるゝ廣大なる仁慈を內に藏したまひしが故に外ならぬ故ではありますまいか。結婚愛にても同じことでありまして、もしこれを廣き人類愛の根につなぎませんならば、戀愛といふ强烈なる活力によりて、綠濃く匂ひてをりますやうでも、御正月にかざる門松の如く、いつしかに枯れ萎むのでありませう。『結婚は戀愛の墓なり』などゝ申すも此の意味に解することが出來ると思ひます。故に結婚愛を限りなく永續せしむる爲には、之をその根源である所の、より廣き人類愛につながねばならぬと思ひます。一燈園の結婚式に於て、托鉢衣を着、ま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た新婚旅行のかはりに、托鉢を必ず行ずることに致してありますのも、此の意味に外ならぬのであります。結婚愛を常に人類愛に結びつくることによりて、それは限りなき生命を得ることゝ思ひます。否、かくしてこそ始めて夫婦の心に生じたる戀愛も、眞とに生きて活くことを得るのであると思ひます。かくして相共に我執我儘をとり去ることは、お互の美を成し、美を觀し、美を續くることになるのであると思ひます。

昔し伊太利の大美術家ミケランゼロといふ方は道を歩いて、不圖一つの大きな大理石を見てあの中に天の使が閉ぢこめられてをるから、救ひ出さねばならぬといふて、毎日鑿を以て刻み、遂に美はしき天の使を現はし出したといふことであります。我執の鱗が脱落した時には、大きな石塊の中にも美はしき天人を見ることができませう。そしてもしそこに愛の力がこもる時には、左甚五郎や、ピグマリオンのそれの如く、その彫像は生きて動き出すでもありませう。ましていはんや、神の作りたまへる人間に於てをやであります。緣ありて婚を結び、夫婦となりたる以上、互に其の美を涵養し、また其の美を見るために我慢執着を去り、まことの戀愛を創造し、その中に生きるならば、伉儷の睦びは限りなく續くであらうと思ひます。そしてその眞との戀愛の中に孕む神祕の力は、謠曲高砂にも申してあります通り『さす腕には惡魔を拂ひ、をさむる手には壽福をいだく、千秋樂は民を撫で、萬歲樂には命をのぶ、相生の松風、颯々の聲ぞたのしむ』といふことにも至るのであると思ひます。此の颯々の聲こそ、正しく夫婦諧和の琴瑟にしらべ出でらるゝ天籟の音でありませう。

× × ×

かゝるめでたき御席に、講釋めいた白墨臭き御話を申述べて祝辭に代へました

失禮の段は謹みて御わび申上げます。

失業者たちの不幸に泣く

――資本家たちの良心に訴ふる言葉――

谷口雅春

苦しんでゐる人々が多勢ある事が此の頃しきりに眼につく。物質的にくるしんでゐる人々、精神的にくるしんでゐる人々。手をのばしたい。併し自分の手のとゞかなさがもどかしい。救ひたい。が、救ふ力の足りなさ、自分の不甲斐なさがつく〴〵感じられる。

此の世界の不幸はどうしたら剿絶できるか――昨日の大阪朝日を見ても次のやうな記事が出てゐる

『西區木津川運河終點の南、船町の一角、蘆の生繁つた中に掛小屋をして露名を繋いでゐる人たちで、そこが市の所有地である爲、一昨年から立退きを命ぜられたが行く所がないとて今にそのまゝ居据わつてゐた、それがだん〳〵切迫つて『この月の末までには否應なしに立退くこと』を嚴達されたのである。……荒涼たる蘆原のこゝかしこの板の切端や古トタン、古布を折重ねて屋根をふいた納屋ともつかぬ家が六、七軒、覗いて見ると關東煮の鍋のぐるりに蠅と蚊とが渦を卷いてゐる。店先にはラムネ、駄菓子、僅かばかりの勢働者の群と、魚釣りに來る客が飯の種、鮮人小屋には一疊に三人

平均で折重つて起きふしてゐる、薄暗い中からは、それこそ最後の一滴まで搾り出してしまつたやうな蒼黒い凄い顔が覗いてゐる。この一角に內地人四十名、鮮人二百がかうした別天地を造つてゐるのだ『彼等は大抵全盛を極めた造船職工の果なのだが、手當も碌に貰はず、バタ〳〵閉鎖した造船所の門を出るとソコに住宅難が手をひろげてゐて廣い天地に身の置き所もなくやつとボロ小屋を建てゝ四五年を過して來たのだ。『職業紹介所へ行つても職もなし、あつたところで精々一日一圓二三十錢、米は高し古木を川から拾ひ上げて飯をたいたりしますが、錆一匹貰つて來て老人に食はせても罰があたると涙をこぼす程。シガない暮し、家賃がいらぬだけ何うなり生きてゐられますが、立退かされては國へ歸る旅費もなし、警察へ行つても叱られるばかり、もうこの世には神も佛もないやうです』と泣くだが市の港灣部では『元々彼等が賃借料も拂はず、勝手に小屋を建てたものだ、この船町二十七萬坪には大阪鐵工所、日本人造肥料、帝國人造肥料、製瓶、朝鮮無煙炭、奧田造船、星製藥の外陸軍省の食糧局倉庫、國際飛行着陸場などで一坪も殘らず使用される非常に重要な土地だからいくら泣いてもダメだ。』と云つてゐる。』

泣いても駄目だ——と濟ましてゐる人々を自分は憎む。大阪鐵工所や、日本人造肥料や、その他の事業經營者は、その經營する事業のために、此れらの憫まるべき人々を犧牲にしても好いものだらうか、自分は此れらの事業經營者に鄕等の事業は誰のために經營されてゐるのかを反省して貰ひたく思

はずにはゐられない。それは人類の幸福のためでなければならない。それは決して資本家の私腹のみを肥やすためであつてはならない。そして郷等が人類の幸福のためにその事業を經營するならば、郷等はその事業の發展のために、これらの貧しき憫むべき人々の住宅を奪ひ去つて、彼等を露天につき出しても好いだらうか。彼等も亦人類の一人なのである。

自分は郷等の良心にのみひたすら訴へざるを得ない。『賃借料も支拂はず、勝手に小屋をたてたものだ』と云ふごとき、冷たい法律上の權利に訴へることを、郷等は耻辱に思はなくてはならない、郷等はそれを防禦なき可憐の幼兒の上に靑龍刀を揮きまはすが如き無耻なる行爲であると知らねばならない

聞くところによれば、來る十二月中には政府の財政行政整理の結果、多數の有識無產階級者がまたしても失業する豫定になつてゐるといふ。それのみではない、民間事業界では、この數年來次第に不景氣のドン底に沈淪し來つて續々失業者を出しつゝあるのである。それは數ふるにいとまがない。前述せる船町にゐる住む家のない貧しき人々の如きはほんの一例に過ぎない。此れに類する隱れたる實例は實に實に夥しきことであらう——自分は玆に、社會組織及び產業組織の上に存在する著しき缺陷に想倒せずにはゐられない。

一つの事業が不振になつた時、その經營が資本家にとつて利益を齎さなくなつた時、資本家はその事業を閉鎖して、生產に從事してゐた人員を自己の利益を擁護するために解雇するのである。失業者に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

解雇手當が充分支給せられた場合は、別なる職業に對して活路をひらき得るまで、その人は兎も角もみじめでない程度の生活をつゞけて行くことが出來るであらう。併し別なる適當なる職業が容易に見出せない時、解雇手當が殆んどなく、あつても極めて少ない時には、失業者は、かの船町の『住む家のなき人々』のやうに零落者とならないことは難しい。

そこで失業者は資本家といふものは、從業者（肉體及び精神勞働者を含む）を必要な時だけ利用して甘味が吸へるだけ吸つたのちは振りすてゝ顧みないものだといふ感じを起さゞるを得ないであらう。つまり從業者は資本家の愛なきあてにならぬ私慾の上に自分の運命を託してゐるのである。何時解雇されるかも知れない。そして何時食へぬやうになるかも知れない——此の不安、此の恐怖をいだきつゝ彼等は悲痛に生活しなければならない。——が、これがまだ恐怖や不安でとゞまつてゐる間は彼等はまだ幸福だと思つてゐる。この恐怖が實現し來る時、彼等は愈々奈落の底に沈淪するのである。

此の不幸はどうしたら救ふことが出來るか。自分は資本家なる人々にもつと愛深くなつて貰ひたく思はずにはゐられない。——此の事は何よりも緊急事である。もし鄕等の愛が涸渇してゐて鄕等の勞働者の心を霑ほすことが出來ないならば、時は迫つてゐる。『立ち向ふ人の心は我が身なり。』勞働者たちの乾ききつた心にぶす〳〵燻つてゐる火の手は、鄕等資本家を燒きつくすために大きく燃えあがらざるを得ないであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一つの生産事業は資本と勞働との兄弟的な結合（他の要素のことは今しばらく考へない。）でなり立つてゐる。資本と勞働とが主人と奴隷とのやうな關係で結合してゐると思ふのは偏見である。それだのに資本をもつ者のみ、その事業繁盛の時には、より多くの利益を壟斷し、事業不振となるとき、その壟斷し終つた利益を減らして了はないために勞働者をほしいまゝに無條件又は極めて輕い條件で解雇する如き行爲には、誰でも愛をみとめることは出來ないであらう。自分は世の資本家たちに泣いて訴へざるを得ない。一つの事業が社會的事情のために不振におちいつて從業者を次第に解雇して行かねばならぬやうな破目に陷つた時、卿等は愛のこゝろをもつてその解雇さるゝ從業者を一人の同胞であると見なければならない。一人の兄弟であると見なければならない。玆に卿等の貧しき兄弟が、失業して食ふに困つてゐるのだと見なければならない。卿等の兄弟が失業して食ふに困つてゐるのに卿等は默つて見てゐられるであらうか。たゞ形式だけに一時若干の金を與へて、あとは、何うならうと好いと澄ました顏をしてゐられるであらうか。おゝ何と云ふ愛の淡さだ！

普通、資本家が失業者を世に送り出すとき、最もよき待遇は、若干の解雇手當を與へて後は顧みないことである。後は顧みないことが最もよき待遇なのである。驚くべき最良の待遇よ！

資本家たちはこれを最もよき待遇だと思ふことを耻ぢなければならない。然らばどうすれば好いのかと卿等は駁撃するだらう。卿等は全力をこの不幸なる兄弟（失業者）の職を得るためにつくしてやら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なければならない。本當に卿等の愛が深まつて來た時、卿等は自分の從業員が失業者となるのを自分の兄弟が失業したよりも悲しく思ふ時が來るであらう。卿等は自分が失業したのと同じ悲しみをもつて解雇せらるゝ者を見る時が來るであらう。卿等の自他一體感はそこまで深まらねばならない。

資本家たちは一切の解雇しらるゝ者に、解雇手當以上に無限の責任を負ふ時、自家の生活が到底經濟的に耐へ切れない、と答へるであらう。しかしこゝに『愛』の生活の祕密があるのである。この祕密は理窟でも少しは解るが、『愛の生活』によつてのみ本當に解るのである――それ故次に畫く如き理窟は『愛』の藏する祕密の唯の片鱗に過ぎない。――

若し資本家が從業者を自分の事業に雇ひ入れる時、前者は後者の最後の運命までも見守ると云ふ愛の氣持に於て互ひに結ばれるならば、そこには少くとも、その事業の繁盛時において、從業者の驚くべき能率上の增進があり得るのである。かゝる關係に於ては最早從業者は資本家に對して他人がましい氣持で對することが出來ない。事業が衰微することは資本家の不幸であると共に從業者の不幸である。かくの如き事業に於ては衰微するおそれは最も少い。併し若し社會的事情のためにその事業が衰微するやうなことがあるにしても、その事業の繁盛時に於て著しく從業者の能率があがつてゐる筈であるから、少くともその從業者が次の職業につくことが出來るまで彼を完全に見守るだけの富の收入の增加があり得た筈である。それゆゑ資本家が從業者を解雇しなければならぬやうな破目に陷つた時、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

形式的な解雇手當以上に愛の心をもつて適當なる職業を見出すまで從業者を保護すると云ふ保障をもつて相互ひに結ばれることは、そこに何等の物質上の損失はない筈である。これだけ位ゐの有限の責任では完全に愛とは云へないが、それが種々なる段階に於て完全なる愛に近づく程、愛が無限供給の本源であることがわかつて來るのであらう。げに愛は無限である。愛はそれが深ければ深いだけ一層多くを供給するのであるが此れだけ位ゐの有限の愛では有限の供給しか有り得ないのは已むを得ない若しそれ此れ以上に精神的なる利益をあげれば諾きない。私慾一點張りで相對する時、資本家とその從業者とは地獄的な關係にある。そこには地獄の相が實現してゐるに過ぎない。併し愛の心で相結ばれる時、そこには極樂の相が現出する。

自分は資本家に對して無限の愛ある態度を希望しながら、その方法に於ては有限なるもの（次なる職業への愛ある世話）だけを説いた。これ、まだ深き愛の體驗をもたぬ人たちにそれ以上を望むことは却つて實現し能はざる一片の空想を說くものだと一笑に附せられんことを恐れてゞある。一里の道も一歩からである。無限の愛もいと微さき行爲からである。いと微さき愛の行爲も、それをなし得た時その歡びは卿等を次なる一層大なる愛の行爲に導きとなるであらう。かくならんことを祈る。

（大正十三、十、二十四）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

流るゝ水に記録す

松下吉衛

◇

人にあいたし。

人と世に接することいよ／＼近くして、人を求むるの念ます／＼切なるものがある。

眞實、人にあいたし。

あまりにもまどいもつれた人心と世相である人がいでないことにわ、もう、だめだと思う。

人よ、人よ！

◇

さても平均點のかなしさ。

◇

二元論者とけなされようが、微温的とあざけられようが、乃至、また異端者あつかえされようとも、今、私は、宗教的情操を基調とせる社會運動を創始せんとする熱情に燃えつゝあることを告白せずにいられない。

志を同じうする人々の教導と協働とを祈るや切。

◇

形にあらわれた抵抗無抵抗を私は言いたくない。たゞ眞理につきたいのだ。合掌とパッシヴヴォイスの用語も、敬虔懺悔の情のまことにやみがたき自然の發露でなければならない。

◇

根本的問題の解決に不斷の祈りをさゝげると共に當面の急務から回避したくない。はなれた立場から概念的に問題をあつかつて、どうのこうのと言うて興がつてもはじまらない。

◇

安心か、仕事か。

私は知らない。

私わたゞ仕事に即した安心をと願つている。

◇

失業者のこのおびたゞしい群よ！

誰がわるいのか、一体！

どうすればよいのか、吾等は！

……あゝ斷食して祈らん。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

聖フランチェスコに就いて

黑田正利

文藝や思想について少しく嚴肅主義を守る人であつたならば、今英國の流行兒の一人チェスタートンの名を見ると早速あのジアーナリストがと、面白味と同時に一種の蔑蔑をさへもつて考へてるでせう。そのチェスタートンが今度聖フランチェスコの評傳を書いたと廣告を見たとき、私は又かと思つた。しかし批評を見ると今迄のものとは違つて甚だ眞面目のやうです。而かも表題が「最も愛せられる聖者………」とあるのが旣でに私の感興を惹く。成る程學問知識或は德行に依つて尊敬され畏れられる聖者大德は幾多もあるかも知らない、さりながら私共が最も要する人は私等が愛し得る人である信仰が愛に依つて繫ぎ得る人である。人に愛されるといふことはつまり人間の中に確乎とした足をふみ入れ、人間の中に深く滲み込んだ人ではないのでせうか、人間の魂の奧に沈潛して其處に夜の闇黑な淵を見ると共に、自分の中から止むに止まれずして溢れ出る慈悲に依つて電光の如く强く輝き渡る回向の光ではないでせうか。多くの場合私共は魂の暗い淵に戰くことだけは出來ます、それを遁れやうともがく力を呼ぶことは出來ます、しかしそれは內から照らされる光ではないのです。フランチェス

〻聖人はつまり此の光であつたのだと思ひます。いかなる人からも愛せられるのは當然のことでありせう。

私は別に深く聖人の心には入つた譯ではないが、少い私の貝が汲み得た二三滴を左に述べさせて頂きます。

聖人の一生の樞軸となつてゐたものは回向である、それは聖人の言葉でいへば貧であり、福音であつた。聖貧がその中心的生命であつたゞけ聖人が經驗された內的意味は深い力であつたことは申すまでもない。福音書は「貧しき者は幸なり」、「富める者の天國に入るは駱駝が針のメゾを通るよりも難い」といふ。若し今日の經濟主義、自由競爭の上に立つ文明からいふならば、これは一見組織の轉覆であるやうに考へられる、我等は出來る限り自己の權利を主張し富を奪ひ集めて始めて幸福があるかのやうに敎へられてゐる。而かも貧しき者は依然として增さすばかりであるし、巨萬の富を集めたものも滿たされない、物質上の富は必ずしも魂を富まさないから。美しき同情や己れを擲してまで回向、秋霜の如き義理さうした神の光は却つて貧しき者の中に輝くことが多い、何物をも持たない者はなほ魂の深みに入る鍵を持つてゐる。十三世期のアシジは文通の要衝であつただけ、文明のフランスに近かつただけ、聖人も若い時からかうした生活苦に直面してゐた。家が流行物を追ふ商人であつただけ、金が物を言ふ境遇であつただけにさうした方面の人間相がよく見えたことであらう。門地の代

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りに金を撒いてみた、その時聖人は人からもてはやされる興味とともに、施しの嬉しさが心に銘せられたことであらう、たとへ幽かではあるにしても回向は又悦の回向を報ひられることを經驗されたのであつた。捕虜になつた生きる望のない大病にもかゝつた、その時無一物なる本來の我に直面された眞純な心になり我と他人との墻を起えて愛によつて相抱き得た魂に初めて永遠の收獲は考へられたことであらう。全く純なる魂を抱き得た刹那、久遠の生命が聖人の心には流れ込んだのであつた。主は萬物を造り育み給ふに何ら代償なくして人間に施し給ふ、人は主の前に我が物と主張すべき權利何處にありや。主は人となり、最も貧しく暮らし、終には何物をも回向し終りて十字架の苦みまでも受け給ふた、これ程の愛が何處にあらうぞ。さうした感じが宗教學者と敎會の主張する敎義に一致しやうとしまいと、それは何でも可い。聖人はさうした回向の眞諦をひとり深く味はられたのだ。勿體ない、衣と食に飽く自分は勿體ないと感じられたのであつた。貧は人から最も忌まれてゐる、たゞひとりイエスのみが愛された、苦しい生命に入るため、今經驗した久遠よりの我を滿足させるためには貧を選ばなくてはなるまい。貧乏人が眼の前に現はれる、それは何だか苦みを受け給ふ救主のやうに思へて仕方がない、溢れ出る憐憫は救主への回向として、その施しはむしろ自らに施されるのであつた。聖人は終に何物も施し終り、怒れる父には着物まで返した、何といふ美はしい心なんであらう。聖人の行くべき路は廢れた僧菴であつた。併しそれは苦業をせんがため或は今迄の遁世者の後を追ふためであつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たといふよりは、廢墟となつた宗教の地に清新な信仰の木を育てやうためであつた。人間から産れ出でる元始の愛をつちかふためであつた。それはまたイエスの取つた道でもあつた。

福音に生きる者は着替、財布………それら寒饑をしのぐものより以上の物を持つてはならぬと教へられてゐる、しかも野の百合の如く神の惠は溢れることをイエスは證明した。一物も持たない聖人の心には福音の行者——といふよりは福音に生きる念願と悦とがみちてゐた、聖人が體得せる神の愛に人と共に生き度いとの願が壓へ切れなかつた。世間に於て誰もが嫌がるもの蔑しめるものは多分乞食であらう、最も憐れなるものも亦乞食である。聖人は此の嫌がれる乞食となつた、それはたゞ饑をしのぐために聖人には必要な、普通の人には餘つたものを乞はれた、人々はパンの回向をすることによつて神の愛を又回向されたのであつた。だから聖人は「神の愛のため」でなかつたなら決して物を乞はれることはなかつた。極度に簡素な生活には、土間に藁を敷き茶碗のかけら、パンと水、それで結構であつた。泉の如く湧き出でる神の愛を傳へるためにはそれで不自由はなかつた。働かない者は食ふ資格はないといふ、しかし直接に財を造り出すことのみが働く意味ではあるまい、若し聖人の如く饑えたる魂に糧を與へるものがあつたとしたら受くる者達は何物をもをしみなく聖人に回向するだらう而かも聖人は世界で最も貧い者である以外には何物をも受くる慾望はなかつた。否病に苦しみ寒にふるふとき偶々外套を差上げるものがあつた、聖人はそれさへ早速貧しき者に施された。たとへ寒苦に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あるとも誰か神の愛によつて乞ふものがあるならば恐らく彼は赤裸になり、否肉の命までも與へらたであらう。一貴族の許に食事に招かれたとき食前に家々にまづ托鉢し、食卓につくやまづ神恩を謝しそれを貴紳の客に分つた、彼等の內あるものは竊かにこれを藏つて家の寶に持ち歸つた者さへあつたといふ。乞食にされる聖人が門口に立たれたときアシジの人達はどんなに尊く有難い姿として拜んだことだらう。貧欲にしてたゞ空洞に泣く人達はどんなに感謝と兄弟の和平を敎へられたことであらう。聖人は後に第一の御弟子達——兄弟達と一緒になられてから彼等にこそ時には乞食に遣はされたが——敎團の人達は書き遺してゐる如く殆んど病氣に陷るまでに勞働をし困つてゐるものを助け、それにてたゞ饑をしのぐだけの食を得てゐた、それでも食事さへ無いこともあつたので——誰にも一般の人にすゝめたのではなかつた、彼にとつてまた彼と同一體である選まれた人達に取つて、それは當然行くべき道であつたからである。

聖人は出來る限り艱苦をなめやうとせられたが、それは前にも云つたやうに厭世的な隱欝な考からではない。さうすることが最も惠まれた道であつたのであつた、それだから聖人は弟子達にも始終快活であるやうにとすゝめられた、陰氣な苦しさうな面さへ人に見せることを欲しられなかつた。それ處か、時には小枝をまげて琴としそれを彈いて神の讃歌を稱へられた、光月の心になほ春のばらが咲き荷つてゐる。病苦にせまつて命旦夕に迫まりながら此の人の心にはあの美しい太陽の讃歌を誦し、兄弟

達にも歌はせ、それを敎へられる偉大な餘祐……法悦があつた。蒼白な顔に世を呪ひ、人を白眼に見る修道者ではない、人を餘りに愛するが故にかくは全く身までも世に回向されたのであつた。

「太陽の頌」を讀む時私達は救はれ福ひせられた者の如くに思ふ、至純なる文學と生きた宗敎とが湧きあふれてゐるかのやうに思ふ、私達の少さい怨も誇もそれから出る苦痛も何處へか去つたやうに、美しい魂へ歸入し得る。これを讀んで救はれたものは啻にアシジの僧監督と府郡ばかりではあるまい、(宗敎上の長者と政治上の長者とが長い間爭つてゐたのが聖人のこと讃歌を聞かされて泣いて互に詫びあつたといふ)。何物をも愛に於て回向し終つた聖人には、人間ばかりではなく自然のすべてが懐かしい兄弟姉妹によみ代つて來た。彼等は何の位彼を美しい抱擁の中に入れたことであらう、小鳥にさへも神の愛を説法しなければ止まなかつた、小石さへふむのが勿體なかつた。雜草の一つにも涙の出る程神の愛と生命が出てゐた。死でさへ聖人には嚴しい兄弟であつた。大地から生れ出た彼はまた最もよく大地なる母に抱かれた人であつた。

聖フランチエスコは恰も野邊の草木のやうに、なにゝもこだはらないで矗々と伸びたのであつた。聖人の頃には煩瑣な宗敎哲學があつた、しかしスコラの議論は聖人にはつまりどうでも可かつた、議論は生命ではないのであるから。また學問も餘りしやうとはしなかつた、學問に一生を費すよりも自分の中から湧き噴き出す眞理に耽りそれを傳へることの方がより尊かつたからである。一卷しかない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

禮拜堂の聖書でさへ、貧しい母（弟子達の母をかく呼ばれた）に施した方が、聖人の心にはより深い眞理を語つたからである。藝術的創造が他人の知識ばかりの蒐集――學問によつて萎縮することがあるやうに、至純なる心は知識の集積のみによつては不具になり終ることがある、それ故聖人は弟子達が餘り讀書に耽るのを好まれなかつた。知識は必ずしも艱めるものゝためにその重荷の一つを負はないですむ。弟子達に向いて知識よりは此の自分だと自ら指さゝれたことがある。自分の生命とは全く關係なしに集め得る知識よりはまづ自分の國を造り、創造にある自由な内生をはぐゞめといふに外ならない。知識は此の意味にて第二次的であらねばならぬ。學問は好ましいものとしてもそのため魂を萎縮さしてはなるまい。當時の教會は隨分醜い態をしてゐた、しかし此の教會さへ聖人の世界とは別に交渉をもつことはなかつた。聖人は聲を大にして革命を呼ぶ改革者ではない、彼はたゞ福音から直接に教を受けてそれを日常の生活に實現された、故にそれは彼の特異な人格に吸收されて新らしき酒となつたのである、如何なるものも一度彼の性格にふれるものは悉くそれに溶融し了つた。聖人は教會への革命を叫んだのではなかつたが、その生活は自ら既成宗教に新らたなる生ける酒を注ぎ込んでゐるのであつた。總べての潮はあらゆる方面に激動を始めてゐた時代に係らず、殊に何世期かの靈的權威であつた教會が内的破綻をしやうとしてゐた時にかゝはらず聖人はさうした騒しい渦卷に――併し一時的の渦卷に投げ込まれることなしに、自分の國を深く深く掘つて行つたのであつた、それは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

他のものこそ動かされるのであらうが聖人は何物にも動かされない金剛不顔の境であつた、不斷の法悦に醉へる境地であつた。かゝる住地に自在にある人にはモーゼ式な律法をして物いはしめてはならぬ、はたアウグスチヌスの信條を始めそれら外から與へられた色々な律法は何うでもよい、自分から湧き出でた處に從つて、それは殆んど衝動の如く自然で、それだけ根深くその示すところは常に正しい。聖人は別に社會問題も國家的政治の問題にも解決を與へやうとしたのではない、それら諸種の問題を始めわれらの道德と雖も、その根底にかうした衝動的な回向が慈悲が無いならば何時迄も爭論といふものゝ範圍を出ないであらうから、何故ならば聖人の心はそれら正義に於いて解決せらるべきもののゝバネであるから。かつて聖人がまだ在俗の頃、癩病人だけは嫌で何としても近寄れなかつた、偶々途上その嫌な病人の乞を拾てゝ行き過ぎやうとせられたとき、全我的でない卑怯な自己をふと顧み突然馬を下りてその病人をいたはり接吻した、その刹那彼は全く光明に輝くキリストであつたといふ。

洪水の如くに廣まつたフランチエスコ敎團が次第に行き詰まり、人類の殖えることに反して光の消えていつたのは此の聖人の心を失つたからである。それら門侶共は聖人の骸のため莊麗なる墓を築くことは知つてもゐたらうが、聖人のこゝろに生きることを忘れてゐたのだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

凡夫身より菩薩道へ

―ある人への手帋の一節―

住田蓮車

聖道門と淨土門、といふことについて、そこまで信心の進まれたこと、ありがたく存じます。お說の通り、今日までの通俗的淨土門の往き方は、餘りにゴマ化し的です。法然上人の所謂至誠心かけた念佛です。上人が至誠心を釋したお言葉に曰く『至誠心といふは、眞實なり。その眞實といふは、身にふるまひ、口に言ひ、心に思はんこと、みなまことの心を具すべきなり。』何事にても、一向になれず、本氣になれぬ者に、證は開かれません。形は似て非なるものです。恰も熟睡と狸寢入りのやうなものです、內に救ひを感じて居る者には自らなる巧まざる落ちつきが外にも出て來ます。

お光りに一切を歸入し、我執を去り、無我に歸した心境こそ、道として仰ぎ求むる處の究竟のものです。そこから出て來たはたらきならば一切がそのまゝ一切の救ひの業となります。そこまで往けぬ間は、他よりは奈何に貴しと言はれ、人格者、有德者とあがめられやうとも、矢張り罪惡生死の業は無限です。法然さんが懺悔の念佛といふことを唱導されたのは、こゝではないかと存じます。一燈園生活の懺悔も亦之れと同じ理より出たことです。

觀無量壽經下品往生の爲に曰く――

如此愚人、多造衆惡、無有慚愧(中略)智者復敎、合掌叉手、稱南無阿彌陀佛、稱佛名故、除五十億劫生死之罪(中、下生は八十億劫)

往生講式に曰く――

事理の懺悔を修すべし(乃至)但し、事理の懺悔に堪えざるものは、一心に彌陀を念ずべし、能く八十億劫の生死の罪を滅す

あなたのお持ちの淨土宗聖典の中にありますから、之らの處よくお味ひ下さいまし。

救はれ難き自分が斯く救はれて行くお光りの慈悲の貴きに生きて、この懺悔を通してこそ感

謝の生活は出て來るのです。懺悔深きに比例して、感謝、法悅もまた深い。大經の法藏比丘の願行、バイブルのクリストの十字架は、此の懺悔の生活であるとも見られるでせう。此の二人は一切衆生の罪をさへ一身に荷負して、その贖ひのために自らを十字架にわたし、諸の苦毒の中に身をつき入れた人です。韋提希夫人を通して現はされた觀經の精神は、罪業の重荷と責め苦に堪え切れず、將に墮地獄せんとしてゐる凡夫人が、哀痛悶惱の極に於て佛を呼び、佛の前に身を投げて、啼泣慟哭し、懺悔して淨められた彼女が、佛力によつて十方の淨土を見、西方の極樂淨土を撰擇しえたまことの法悅、感謝の精神に初まります。

　大經に於て菩薩として現れ、菩薩の願行具足して成佛し、報身報土を取つた法藏比丘が、更に凡夫の位に還つて、韋提希夫人と化現し、報身報土に罪惡深重の私達凡夫の入るべき道を說かれたのが觀經です。凡夫としての韋提希夫人は『心生歡喜、廓然大悟、得無生法忍したのであります。佛力によつて阿彌陀如來、觀音勢至の二菩薩、及びその淨土を見た彼女は、また諸佛現前三昧を得たのであります。無生法忍と言ひ、諸佛現前の時といふ、それはみな菩薩摩訶薩の境地です。觀音勢至と等同であります。此の經を聞き、お光りに觸れた後の韋提希は、凡夫の身そのまゝが菩薩になり、穢土にあつてそのまゝ淨土に入つたのであります。このまゝの生活がこのまゝ菩薩の行になつたのであります

それ故に、彼女と共にあつた五百の待女は無上菩提心を發し、長へ不幸の子のために七重の塔内に幽閉されてゐた夫の頻婆娑羅王は救はれ、希有の大惡逆者と稱ばれたソの子の阿闍世王まで發心懺悔して、遂には佛陀の教團の最も良き而して最も有力なる信者外護者となつたのであります。彼女一求の求道は全體の救ひであつたのであります。

　淨土三經の何れにも皆說けるが如く、經に遭ひ、善知識に遇ひ、法を聞き、道に入りえたいといふことは、只それだけでも宿世の善根の開

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

發成熟であらねばなりません。正しく發心したものは、亦韋提希と等しく、凡夫身のまゝ菩薩の位をえたのであります。

大經上卷十二光佛の段に『其有衆生、遇斯光者、三垢消滅、身意柔軟、歡喜踊躍、善心生焉』とあります。身意柔軟とは、お光りに自己の全體をまかせ切つて、無心無我となつた狀態です我執我慾の心によらず、與へられた仕事に托鉢三昧してゐる時、私達は、尠くもその間は、三垢消滅、心身柔軟をえて居るものです。念佛三昧で、亦諸佛現前三昧です。佛と佛とが拜み合ふてゐる世界です。そこに報身報土は顯現してゐます。凡夫ではありません。全くの菩薩です。

無明薫習の我執我慾が凡夫を作るのです。それだけは懺悔にも懺悔せねばなりません。

與へられた狀態、生活に、愚痴、不平を言ふことなく、落ちついた心で生活し、感謝と懺悔を失ふことなければ、それが大安心です。念佛三昧です。生活の樣相から見て一燈園生活では托鉢三昧といふ。同じことです。

お手帋の心持嬉しく拜され、思はず書いて了ひました。家庭と事業の上に、無理とならぬやうの處から、次第に祈つて下さいませ。世間法の中に身を入れ、たづきを立つて居る以上は、先づ世間法に隨順する處より初めねばなりません。

殆んど說明秡きに書いたので、お解りにくいかと存じますが、お許し下さいませ。

あなた方の上を深くお祈り申して居ります。

本號表紙題字は中華民國西安府に現存する太秦景教流行中國碑からいたゞきました。

燈影小塾

れんしや

此の小さい塾のことを、一燈園の女學校とか何とか、大分新聞には大げさに書かれたやうですが、そんな大げさに考へられては困るのです。ほんの小さな寺小屋まがいの試みなのですから。

或る地方に居られる人が京都に出た時の足溜にもと、家を一軒探されたのです、その家の留守番を一燈園の人にして貰ひたいと、その人から天香さんに頼まれたのです。それから、そのまゝふだん遊ばせておくのも勿體ないから、何か道のことに役立てゝ欲しいといふことになり塾といふことに話が廻つたのです。それもほんの時日の短い間にさうした話になつたのでした。

教育方面に對しても祈りを向けて見たいといふ願ひは私達同人の間にも多少はあります。けれども、此の塾はさうしたことゝも全く無關係にぽつつり生れ出たのです。詮じ詰めて見れば皆のさうした願ひが、かうした折にかうした形で現はれて來ることになつたのかとも思はされますが。

天香さんから呼ばれて、かういふやうな話になつたから、大體の方針を定めるやう急いで塾則を作つて見て下さい』と言はれた時は、餘り突然なので、一寸面喰ひました。兎も角在園の主な人數人に集つていたゞき、皆の意見を話し合ひ、塾則代りにそれをまとめました。

開塾の大體の氣持としては、第一に、世間では、可成り良く一燈園生活を認められ、その子女達にも此の生活の修行をさせたい希望を持つて居られるが、純粋に一燈園の人として修行させるのは少し强道すぎる、もう少し柔くしてと望まれて居る家庭も相當聞くことです、またその娘さんの氣質や體質によつては一燈園では無理になる人もある——かうした人々をお預りして、將來婦人として必要な裁縫、家事等を學び

つゝ、一方、一燈園生活の氣持を味ひ、托鉢の修行もしていたゞくお役に立ちたいといふお願ひからであります。

最初作制した塾則の中には、教育に對する塾の精神や、學科、組織といふやうなことも多少揭げて見たのですが、塾の實際はまだそれをなしうる時機に達して居らないのです、目下の處では、殆んど裁縫を主として、それに家事向きのこと其他を少し加へ、そして一燈園生活の氣持をしつかりと躰得していたゞくことにして居ります。

次第に內容を充實し、將來には一つの完全な女子教育の機關としてお役に立つ處まで育てあげたくは願望して居ります。今は宛も母胎から生れ落ちたばかりの、謂はゞ自分で乳を吸ふことも出來ぬ嬰兒のやうなものです、私達の此試みが光のみこゝろに適ふものならば、此の嬰兒は、やがて少女となり、娘となり、一人前の立派な婦人とまでも成長するでありませう。無理でない。素直な正しい成長發達を此の嬰兒に取らせたいものです。さうしたら、小さい者は小さい者なりに、何かのお役に立つことになるであらう。一般の教育機關では手のつけられぬ、若しくは洩らされてゐる部分を、此の小さい試みによつて、私達は私達の立場から、成るべく謙遜に、虔ましくはたさせていたゞきたく願ふて居ります。

此の塾の發達のためには私達は勿論深く祈らねばならぬことですが、また外からもお祈り添へしていたゞきたく思ひます。

此の塾の伸び具合や、また一燈園生活の立場から見た教育觀などいふことについては、他日適當の時機を見て、書かせていたゞくことにします。

今は只此のやうなものが出來たといふことを本誌の讀者の方々へ御報告だけさせていたゞきます。

塾に關する問ひ合せは左記へ

京都市烏丸頭下總町停留場前

燈影小塾

光の友の會記事

(一) 神戸光友會

創立大正十二年十一月以來毎月第三土曜日を集會日と定め、通知の有無に拘らず、午后七時須磨太子館に、集る事になつて居ります、この日は天香師にも、事情の許さるゝ限り御臨席下さいまして、會の中心になつて頂いて居ります而して特に天香師に御懇談ある方は、會の前後別室にてお話し下さる事になつて居りましたが五月度から、ともしび會と云ふ姉妹の會が、友會から生れる事になりまして御婦人の方で夜の會に出られない方を會員とし、友會と同日に晝間開かるゝ事になりましたので、五月以後會合日の天香師は、晝夜ぶつとほしで、稽古臺になつて頂いて居ります、只今のところに友會の會員は約八十名、ともしび會約三十名で、毎回四五十名の參會者を得て居ります、而して兩會共公開して居りますので、時々會員外の飛入りもあり、其他會員の紹介で新に入社する人もぼつ〳〵ありますので、會員は漸次增加して居ります。

尤も四、五の兩月は、天香師臺灣入りの爲め師の御臨席は得られませんでしたが、師の代りに福原氏に代稽古をつけて頂きました。又九月度には丁度中桐先生が、朝鮮より御歸りの途にありましたので、態々神戸に御下車一日御滯在を願ひ、ともしび會と友會の兩方に出て頂きました、たの他臨時の會として、例會の外十月十八日には、福原氏の送別會を開き、神戸光友會の創立者を東京に御送り致しました。（神戸 臼井幹事）

(二) 長濱光の友の會

先年來當地で、天香さんに御懇意を願つて居ります者が、時折聖師のお話を承る會を催さうではないかとの相談が、折にふれてはあつたのですが、そのまゝ時を過して居りました。處が近來各地に光の友の會が出來、殊に最近では京都にもその集りが生れ良き光明を仰ぎつゝ進ん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

で行かれるのを見ては、私達もぢつとしては居られなくなりました。此の江州長濱の地は天香さん出生の地です。一燈園の一番の聖地と言つてもよい地です。『豫言者故郷に入れられず』とは、昔からよく言はれたことですが、尠くも此の長濱だけはさうであつてはならないと思ひます。郷土が生んだ本當にすぐれた人を拜んで行くことこそ、その郷土全體としても救はれ、またお光りに輝かされることだと思ひます。

十一月五日午后七時から中居篤次郎さんのお宅で初めての集りを開きました。來會者九人、天香さんは同日午后お着きになつてから、一二軒御訪問を濟まされて出席されました。同夜集つた方々で、今后の方針其の他協議し、會則は幹事が起草することになりました。集りの日は毎月三日夜といふことにし、幹事は年長の日比さんに指名を乞ひ、中澤、青木、杉本の三人にきまりました。天香さんは、最近歩かれた栃木縣鹿沼町其他諸地方の篤信の人々の上に現はれたお光りの閃きについて、ありがたい事實談をして下さいました。

第二回は十二月三日午后七時、杉本吉之輔宅にて開きました。天香さんも同人の柳武次郎さんを伴はれてお見え下さいました。天香師共十一人集まりました。師を中心に道のことや、また實生活上の問題について、有益な座談が交はされ、思はず夜を更かして、一時近くに散會しました。此處では會員は主に天香さんとは少年時代からの友達や知り合ひなので、それがかうして道を求めて集る處に、一層の親しみと嬉しさを覺えます。私達在家は在家なりに、お光りにすがりつゝ、自分を整へ、道にかなひたく願ふて居ります。京都初め各地光の友の會の小さい兄弟の一人として、此の地にも一燈園のお光りを燈させて下さいませ。(杉本吉之輔住川蓮車合記)

(三) 舞鶴光の友の會

十二月は五日夜、西村宅にて集りをいたしました。

婦人の同人の方にも是非一度來ていたゞきたくお願ひしました處、お許し下さいまして、前日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

四日より、勝淳さま、宇戸つる枝さま三木絨子さまのお三人がお越し下され、西村宅初め二三に托鉢して下さいました。お三人のやうな一燈園に長く居られ、此の生活に立ち切つて居られる婦人の托鉢を受けることは、家庭や妻のためまことにありがたいことでした。

天香師は當日御來鶴下さいまして、光の友の會のためにもまた西村個人や家庭のためにも多くの益をお與へ下さいました。

當地光の友の會成立の動機は、大正十三年一月六日、天香師初めて御來鶴講演のありました時、同信の者九人ほどが中心となつて、組織しましたので、毎月順次當番受持ちにて、小集會催して、今日に至つて居ります。會の内容をます／＼充實させたく努力し、祈らせていただいて居ります。

折には皆で一緒に托鉢して見たくも思ひ、八月の集りには、松尾山（西國三十三番札所）へ當地參拜旁出かけ、半日を境内の草取りやお掃除の托鉢をし、午后からはそばの茶店をかりて各自持參のお辨當を開き、坐談いたしました。

（西村直）

（四）京都光の友の會

昨年の秋神戸に出來たのを先驅となして、只今では各地に約三十ヶ所ほど光の友の會が生れ育ちつゝあります。かんじんの京都に此の集りのなかつたのは淋しい氣がしてゐましたが、今度產ぶ聲をあげることになりました。一燈園或は天香さんと特別に御緣の深い方が十數人ほど集まられてお骨折り下されたのです。

十月一日に發起人會を開きました、燈影小塾の座敷を借りて、集まられたのは十五人でした其の他に天香さん初め園の主な人數人も列席し會の組織、申合せ書の起草など決めました。

十一月三日に發會式を擧げました、會場には松浦博士邸をお借りし、集まつたのは三十人ほどでした、發起人代表として松浦有志太郎さん山田末造さんの御挨拶あり、天香さんに光の友の會について少しばかりお話願ひ、それから、前に起草した「申合せ」を報告して、もう一度

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

皆さんに練つていたゞきました。

其の後、此の會をごういふ風に育てゝ行くかについて、多少異つた意見もありましたので、もう一度練り直しのため、十二月九日發起人的の人二十人程に集つていたゞき、意見やら注意やらをお互に交換しました。其の結果初めから駁然と大きくするより、初めは少數でもよろしいから、本當に一燈園を愛し、此の生活に悅びを感じてゐる者の集りとして、先づ質實な歩みをとらせていたゞくといふことにきまりましたそして、正月に更めて發會式をあげることになりました。

その夜の集りには、天香さんの一燈園生活に關する小談のあと、安藤洲一さんは同人の托鉢を受けて初めて一燈園生活を知つた感想談を、黑田正利さんは最近出版された聖フランシスの『完全の鑑』を譯出された感想を土臺として、フランシスカンと一燈園生活の類似についての感想、小森中喜さんは地主として、その居村の小作問題が一燈園精神のおかげで、圓滿に融和されて居る實際談を、大國弘吉さんは府會議員や方面委員として話して居られる細民部落救濟事業を通して一燈園の社會的必要のことなぞ話されました。それから天香さんを中心として、一燈園生活に對するいろ〳〵と親切な御注意が皆さんから出ました。とりわけ、松浦博士からはお醫者さんとしての專門的見地から衛生上のことを、安藤さんは教育家として教育上のことを、中居さんは實業家として經濟的のことについて、それ〴〵よい御意見をきかせていたゞきました。此の夜の集りは内輪的な人ばかりの小數の集りであつたゝめか、寬いた中に緊張を持ち、内容の豐な良い集りでありました。

此の會の持つ使命は實に大きいので、堅實な良い發達を取りたく祈つて居ります。「申合せ」は暫定として左記のやうに作りました。幹事五人、中一人當番として、天香さんにそれ〴〵きめていたゞきました。(れんしや)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

京都光の友の會申合せ

（一）名　稱

此の集りを京都光の友の會と稱びます

（二）目　的

此の會は京都市内外に住む人で〈光(おひかり)の道を讃仰し一燈園生活に興味を有ち之を研究し又は體驗して自他の生活を淨化したい願ひを持つものゝ集りであります

（三）祈　願

一　懺　悔
足らぬ事はまづ自分よりお詫し懺悔して世の迷ひ爭ひ苦しみなどを和げ〈光のみこゝろによりて歩ませて頂きますこと

二　下　座
一燈園生活を心と身と生活に體し柔和と敬虔な生活をさせて頂くこと

三　托　鉢
托鉢の心持で生活を整へ働かせて頂くこと

四　禮　拜
誰に對しても蔑しみ卑しみ輕んずるような態度言葉などを愼しみお互ひの内に惠まれてある〈光の稱子を拜み合ひ育てさせて頂くこと

五　祈　り
爭ひの渦卷に入らず審かず反抗せず不二の慈、平等の愛をもつて〈光の回向を願ひ此の世に天國淨土の將來を期したきこと

（四）機　關

一　幹事、當番
會務を扱ふため幹事若干名を定め此内一人を當番とす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

二　幹事會
イ　當番及び幹事を以て組織し會議一般を協議する機關とす
ロ　例　會　　毎月一回
三　會　計
イ　會計係
　　當番これに當る（必要に應じ幹事中より選定するも可）
ロ　淨財の使ひ方
　　喜捨されたる淨財は光の友會幹事會の集りの費用、事務費等にあて若し多額の剩餘ありたる場合は會員の協贊を經て光化事業の資に生かすこと
四　事務所
　　燈影小塾內（烏丸頭下總町停留所前）

（五）會　則

一　入　會
　　會の精神に贊同し入會を希望せられた方は當番に申込んで頂きます
二　退　會
　　退會は當番に御相談の上きめて頂くこと
三　會　費
　　喜捨によること
四　入會金　　金壹圓
五　集　り　　例　會
六　會　場　　燈影小塾
（毎月一回第二土曜日の夜）

太平元年正月之吉

依卜筮事仕
祈告家万福

一櫻園
支可為令

吉田暎二第一戯曲集

疲れた家

定價貳圓五拾錢
紙數三百三十頁
裝幀美本箱入

内容
疲れた家　兎と龜
道化　父

此處に納めた四篇は皆自分の習作に外ならないけれども、自分にとつてはどうにもならない問題のみを取扱つたものだ。『道化』では、「藝」と「家」、『父』では「家」と「道」との間の關係を取扱つた。「藝」に入るには、又「道」を修めるには、はたして「家」から出、家を捨てなくてはならないだらうか。それが正しいだらうか。自分にとつては可也大きな問題である。又「疲れた家」では現在の日本の中産階級のだらけきつた姿、無爲と困憊の内にしぼんで行くすがたを、比較的客觀的な立場から見つめさせて貰つた。いづれも藝術としては未熟ではあるだらうけれど、自分として取る態度と立場は今後と雖もこの小さな戯曲集より外へ出る事はないであらう。（著者）

發行所　東京市小石川區第六天町二四　段丘社　振替東京六四六七九番
發賣所　東京市日本橋區元柳町十　青々堂書店　振替東京四一八八三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN